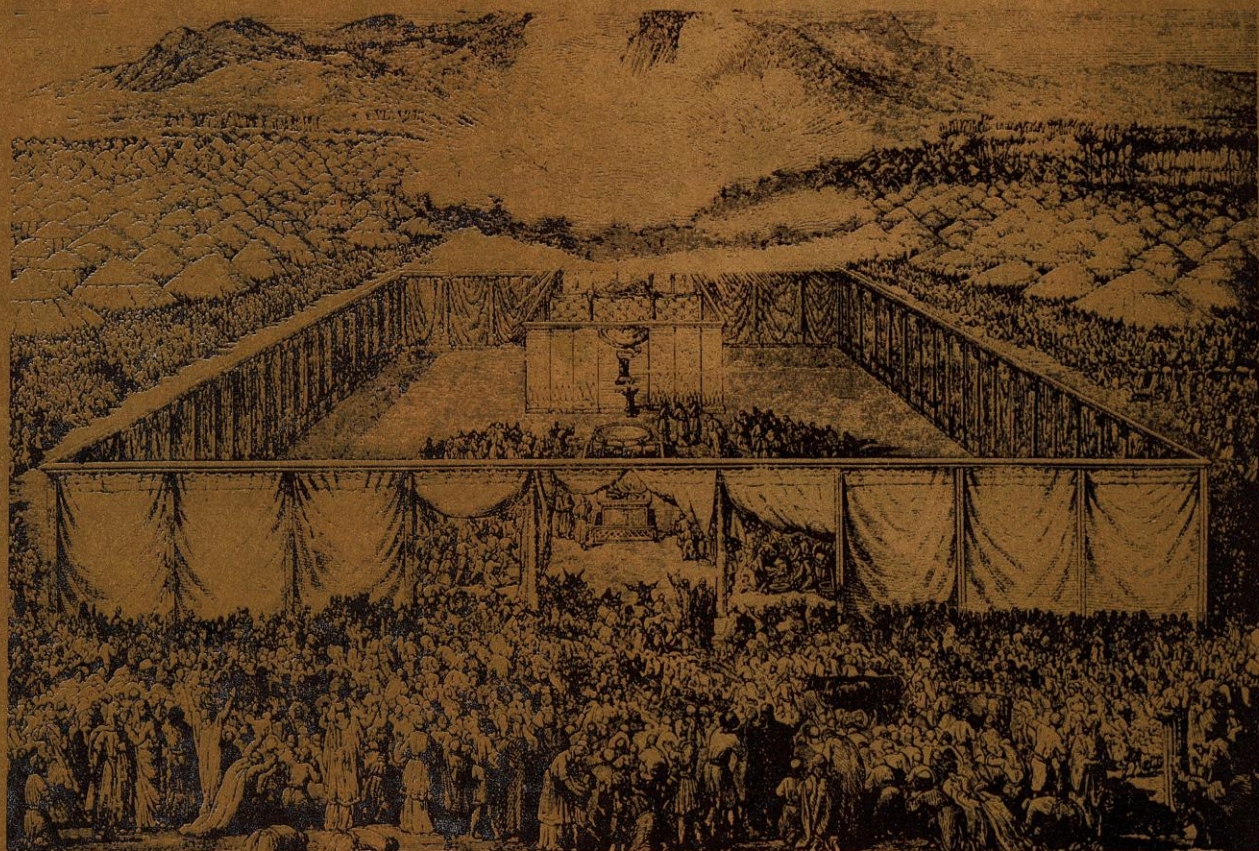




Anchor

アンカー



『神よ、あなたの道は聖所にあり。』詩77:13 (英)
『われわれは今、大いなる贖罪の日に生存しているのである。』
大争闘下 224

第2号

★目次★

アンカーの目的	1
略号の説明	2
「完全」に対する不信	3
信徒からの声	1 1
人の性質	1 3
古代イスラエルと現代のイスラエル	2 0
神の信仰	3 1
TVー現代の怪物	3 2
信仰から学ぶ教訓	3 3
重要でないことと重要なこと	3 9
広告	4 1
編集後記	4 2

◆アンカーの目的◆

アドベンチストの中に三つの大きな曲解がある。

1. 三天使の使命の曲解
2. ダニエル 8:14の聖所の清めについての曲解
3. 預言の霊についての曲解

我々は次の事を信じてアンカーを出版している。

1. 我々SDAの働きと使命は三天使のメッセージである (6T p.384, 2SM p.142)
第三天使の使命が再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。
(9T p.98, GC II p.140)
2. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の特別なあがないを受ける。
(EW p.414, 5, 7)
3. 我々は神のもくろまれたこの特別な祝福、特別な体験を拒み続けてきた。特に1888年以来。
(RH 8/26, 1890)
4. ダニエル8:14ー聖所の清めの解明に御業の完成はかかっている。
5. エレン・G・ホワイトは、聖書の預言者と同等の靈感が与えられた預言者である。
6. 最後の時代のあらしに押し流されないようにさせるアンカー(いかり)は、三重の天使の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証(預言の霊)等である。
(EW p.417, 1T p.300)
7. アンカーには、リレーの最終走者の意味がある。この世代は福音の働きが信者の内に、外の世界に完成する最後の世代と信じる。不信仰によって、140年も時は伸ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(GC II p.182, Ed p.328)
信仰の義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨と御業の完成をこれほど遅らせているのは我々神の民であるとするならば、我々の今日の義務は何なのか、約束のものを受ける条件は何なのか、を研究し共に備えたいと思う。

この出版は皆

証の書の略号の説明

略号	説明
AA	患難から栄光へ
AH	アドベンチストホーム
1-7BC	パイブルコメンタリー一巻～七巻
CD	食事と食物の勧告
CG	家庭の教育
CH	健康についての勧告
ChS	クリスチャンの奉仕
CM	文書伝道者
COL	キリストの実物教訓
CSW	安息日学校の勧告
CT	両親、教師、生徒への勧告
DA	各時代の希望
Ed	教育
Ev	伝道
EW	初代文集
FE	クリスチャン教育の基礎
GC	各時代の争闘
GW	福音宣伝者
LS	ホワイト夫人の自叙伝
MB	祝福の山
MH	ミニストリーオブヒーリング
MM	医療奉仕
MYP	青年への使命
PK	国と指導者
PP	人類のあけぼの
SC	キリストへの道
SD	神の息子、娘たち
1-4SG	霊の賜物1～4巻
SL	清められた生活
1-3SM	セレクトッドメッセージ1～3巻
SR	生き残る人々
1-9T	教会へのあかし1～9巻
Te	節制
TM	牧師と働き人への勧告
RH	レビューアンドヘラルド
ST	サインズオブザタイムズ
MS	原稿
Letters	手紙
YI	青年のてびき



S. N. Haskell



E. G. White

「完全」の約束に対する不信

すべてのセブンスデーアドベンチストの働き人、信徒に質問したいことがある。「再臨の前に信徒は罪なき完全な品性に到達するか」ということがそれであるが、行いによる義に誤解されないために言い方を変えて、「神は我々を罪なき品性に完全にあがなわれるだろうか」とした方がいいだろうか。勿論この地上で、再臨の前である。そして「それは必須であろうか」この質問にある人々は恐怖を感じる者もあるだろう。「完全にならないと救われぬのか」と。又、恐怖を信者に与えるのは福音でないと考えて逃避神学を持ち出す人もいるであろう。

しかし S. D. A. はこれが最終時代の民に対する神の約束であることを知っていなければならぬ。

「もし約束の実行がみられないとすれば、それは約束が理解されていないからである。」(患難から栄光へ上巻 46頁)

約束は何か。

「さてこれらの人々は皆、信仰によってあかしされたが、約束のものは受けなかった。神はわたしたちのために、さらに良いものを予め備えてくださっているのです、わたしたちをほかにして彼らが全うされることはない」

(ヘブル 11:39,40)

すなわち完成である。(ヘブル 6:1) 我々の経験から永遠に罪が除去されることである。(使徒行伝 3:19,20)

「神の民のうちに御自分の品性が完全に表されるとき、彼らを御自分のものであると宣言するために、この世においでになる。」

(キリストの実物教訓 47頁, 初代文集 149頁)

「この働きが成し遂げられると、キリストの弟子達は、主の再臨を迎える準備ができるのである。」(各時代の争闘下巻 141頁)

「何が神の約束を妨げているのだろうか。不信仰である。」

(各時代の争闘下巻 182頁)

古代イスラエル人と同じである。1844年以後「もう時がない」と言われてから、現代

イスラエルの不信の故に神は40年も待たされた。1888年「人間の唇から聞いたことのない」「最も尊いメッセージ」、後の雨、大いなる叫びをもたらす「信仰による義認」のメッセージがジョーンズ、ワゴナーを通して、ミネアポリスでわが民にもたらされた。生来の人間の頭脳では信じられない創造主の啓示を、信仰によって受け入れたなら、神のみわざは信徒の内に「とがを終わらせ、罪に終わりを告げ、不義をあがない、永遠の義をもたらし」、全世界に「いなずまのような、山火事のような速さ」で、福音宣伝は完成するはずであった。我々の教会はどうしたか。不信仰によって天からの雨をとどめ、光を拒んだのである。ラオデキヤ状態はそのために増々深刻になっていった。

120年たって、1950年にウィーランドとショートが、「1888年再吟味」の論文を世界総会の指導者に提出して、教会の悔い改めを訴えた。幾度か拒否された。神の側では約束を果たそうとされた。すなわち、メッセージを通してキリストはご自分を現されたのである。ユダヤ人らは、2000年前にメシヤが与えられたのに、その方を拒んで十字架につけていながら、今日なおも「嘆きの壁」でメシヤを賜えと祈っている。この姿は我々S. D. Aの姿だと言うのである。昔、祭司、君たち、つかさ達が民を不信と背信に導いていったように、指導者らがこの尊い1888年の光を民からさえぎったことを指摘した故にわが教会の反応はどうであったか想像できるであろう。その結果と言っても過言ではないだろうが、1957年にわが教会は「教理に対する質問」を出版した。それはプロテスタント代表のエバンジェリカルのパーンハウスとマーチンと、わが教会代表者のアンルー、フルーム、アンダーソン、リード（4人）の何百時間も費やしての努力の結晶とでもいえようか。大部分のS. D. A.は喜んだものの、この出来事こそ、わが教会の重要教理がそらされて、曲げられ、ボヤかされて、バビロンと妥協してしまったと嘆く人々が現れ、今も警告しつづけている。いち早くその危険を察知したのはわが教会の時の神学者、M. L. アンデレアソンであった。もう引退するときであった。そして、警告の声を発して「諸教会への手紙」を出した。しかし相手にされず、かつての敬神深い神学者、指導者の彼は気の毒な取り扱いを受ける。1957年のエピソードはやはり神の約束「最後の完全なあがない」に対する不信であった。M. L. アンデレアソンは年老いていた故に、神は1960年にオーストラリアのプリンスミード兄弟を起こされ、覚醒運動の器となさった。それはイエスが至聖所に入られたのは民を完成することであり、罪の除

1. つい最近この問題がぶり返され、米国で、TVジョン・アンカバークショーで何回か 公開論議された。実に興味深い、関心のある人はビデオを貸します。その時の内容は別の機会に取り扱いたいと思います。

2. 今でも手に入れることができます。

去は信徒の体験であると神の福音のふるまいにあずかるよう民に招待の声を発した。その時初めて一般信徒の手に「1888年再吟味」が配布され、ジョーンズの「クリスチャン品性への献身の道」やワゴンナーの「良きおとずれ」「ガラテヤ書の研究」「ローマ人への手紙の研究」等が再出版された。アドベンチストに大きなゆさぶりを感じさせ、一般信徒に著しい覚醒が起こり始めた。彼らは完全な品性は我々が到達するのではなく神があがなう働きであると、最後のあがないの祝福を強調した。様々な反響があり、他教派の神学者バックストンは「アドベンチストの動揺」と指摘した。教会内に珍妙な現象が起こった。ある人はそれを「完全主義」とあざけてしまった。そのメッセージを研究しようとする者達を圧迫し、脅迫し、その集会に出席する者達を教会役員からはずしたり、除名したり、聖職から除名したりするようなことが起きた。カンフェランスの総理は「ここは自分の区域だ、私の区域でこんな集会を持ってはならない。私はこのカンフェランスの総理だ」と集会に入りこんで、無礼な非プロテスタント的な態度でおどかしたりした。

さて、ここで、S.D.A.神学者達の完全の約束に対する不信を引用してみよう。罪なき完全な品性は、この地上では不可能であるとのエコーが聞こえるだろうか。

ヘッペンストール：

「古き被造物、または古き人は我々の死、又はキリストの再臨まで、我々に残る。しかし、我々の信仰の創始者であり、完全である方を仰いでいる限り罪と自我は勝利することができない。・・・クリスチャンは新生した人になお悪の泉が残っていると信じる。罪はこの朽ちるべき体を脱ぐまでは常に聖徒達に残るのである。・・・原罪はクリスチャンにも、非クリスチャンにも、死ぬ時まで、あるいは昇天する時まで残る。」

(義の定義 p.18,20)

「ここに我々はこの地上での罪なき完全に対する厳粛な警告を見る。クリスチャンは、なおその中に罪の泉、墮落した性質が残ることを知っている。・・・」

(ST,12-1963)

T.G.パンチ：

「ウェブスターは完全を『非難するところがない、罪がない』『傷のない』品性、『完全に形づくられた』『完全に発達した』『最高の期待の満足』『完全な成熟』に到達した状態と定義している。

完全主義は神学上の見解から、『罪のない状態』ということで、到達可能か、

到達されてきたことであるといわれている。・・・我々はイエスがおいでになる時にのみ完全にされるのだということを感じるべきである」

(ミニストリー 12-1965)

R.S.ワッツ：

「我々はこの地上で、罪なき完全に決して到達しない。」 (RH 5-19, 1966)

デスモンド・フォード：

「献身した信者には罪がかぶされないが (no sin on him) しかし、その中に罪はある (sin in him)。それはちょうどキリストの中に罪はなかったが、(no sin in Him)、彼は罪を負っておられたように (sin on Him)、つまり、悔い改めたすべての者はなお、戦うべき古い性質を持っており、その源から絶えず試みられる。しかし、キリストは悪の古い性質を持っておられなかった。ローマ7:14-23, ガラテヤ5:17を参照。我々の古い性質がついに亡されるのは主の再臨の時に我々の体が栄化される時である。その時には、我々の中に (in us)、我々の外に (on us)、罪はなくなるのである。」 (ST 8-1, 1967 オーストラリア)

つい最近、今年になって新しい本が出版された。サザン・カレッジの神学教授ヘルムット・オッツによって書かれた、「キリストにある完全」である。しかも、レビュー・アンド・ヘラルドから出版された。このこともキリストの再臨の時まで罪なき完全な品性は不可能と叫んでいる。律法に完全に従うことは不可能だと言う。律法への完全な服従が可能だと信じる者はプリンスミードのような狂信者のみだとする。前レビュー編集長ケネス・ウッドは、この本の出版は出版許可されるべきではなかった、と言述されたそうだ。又それは、証の書を読むだけではそれを理解する事は誰もできないという印象を与え、「証の書を無効にする」「新しい神学」の産物である。ホワイト刑行協会もその出版に遺憾の意を表した書評を出しているという。

預言者は曰く：

「信仰によって神の戒めに従うすべての者はアダムが罪を犯す前の罪なき状態に到達するであろう」 (ST 7-23, 1902)

先天的、後天的性癖を克服することは不可能であるというのはサタンの詭弁である！
どうして我が教会は堅固な土台からはずれ、こうなってきたのだろうか？それは、

1. 至聖所に於けるキリストの特別な最後のあがないの働きをぼやかし、軽視

し、無視することからきた。「大祭司キリストの立場と働きについて」の理解をなくすると、「この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることは不可能となる。」

(各時代の争闘下巻222頁)

2. キリストの性質の誤った考えからくる。キリストはアダムが墮落する前の罪なき性質を取られた。墮落後の我々の立場と違う。我々の身代わりではあるが、彼の罪なき生涯は我々の模範ではないとする。(北ニュージーランドのカンフェランスのグリーン総理はR.A.アンダーソン世界総会牧師会長との文通で、この点で誤り、律法を守ることが不可能となれば、安息日を守る意味なしとS.D.A.を去った。)
3. 罪についての誤った考えからくる。罪の行為は止むが、罪の根の原罪が罪の本質であるので、それは再臨まで残るといっているのである。

我々の中に品性が完成されないと我々の外に、伝道の完成を期待することはできないのである。信仰による義認の完全で、十分な成就、新しい契約の成就、律法が心の中に永遠に書き記される。この事は創造主のみができる。その時、安息日を「力強く伝える」事ができるのである。肉食をしていながら、肉食の害を説いても誰が聞くだろう。再創造の業によって道徳的なみ像が我々の中に完成すると、世は主が我々を聖別したことを知るのである。その時、人は主の光を見るのである。さもなければ、教会成長のプログラムも、1日に1000人収穫も、ターゲット90もアッスリヤの馬にすぎず、自分の手の業に向かって「我々の神」と言っているにすぎないであろう。ホセア14:3。

神の約束を再確認してみよう。大祭司キリストが1844年に至聖所に入られたのは、罪を永久に民から除去して、生きて主を迎えさせるためであった。大争闘に於けるサタンの主張を封じて、「ここに神の戒めを守り、イエスの信仰を守る聖徒の忍耐がある」と証明し、神の御名を擁護するためであった。エゼキエル36:22~23。

聖書のどこに罪なき品性に到達すると書かれているだろうか。ダニエル8:14である。新しい契約の天の聖所の清めは、信者の清めがないと起こり得ない。信者は天の聖所で礼拝している者として黙11:1に描かれている。家をどんなにきれいにしてもそこに住んでいる者が、汚れを持ち込んでくるのを止めない限り、きれいになったといえるだろうか。天の聖所で礼拝している信徒から罪がなくなる限り、聖所の清めはない。仲保者イエスは仕事を終えられない。ホワイト夫人は、各時代の争闘下巻140,150頁にマラキ3:2~4、エペソ5:27、雅歌6:10を注解しているが、再臨の前に全き罪からの清めは明らかではないか。ヘブル9:28に再臨の時、キリストは「罪を負うためではなしに」

といわれているのは「罪を処理するためではなく」という意味である。それにレビ16:30には、あがないの日には「あなたがたを清めるため」と民の清めを強調している。黙14:12に何と書かれているだろうか。「ここに神の戒めを守る」民———三天使の使命の作品について描かれている。律法を完全に守る心に罪はあるだろうか？ない！彼らは純潔で、傷のない者達で、口に偽りが無い。

「この働きが成し遂げられると、キリストの弟子達は、主の再臨を迎える準備ができるのである」明瞭であろうか？5T,475に「今や彼らは永久に誘惑者の欺瞞から守られ、印され、新しい歌を歌う」「二度とこの世の汚れに染まない。」と記されている。

「後の雨によって神の道徳的み像が熟し、完成される」とTM,506にある。

不信はこの至聖所におけるキリストの作業を「律法主義」と言ったり、「聖なる肉」、「完全主義」と呼んだりする。昔、神学者らがキリストを悪霊のかしらベルゼブルにとりつかれているとしたように。「おお何という不信だろうか！」(RH 12-23,1890)主は我々に特別な経験をさせようとしておられる。生きて主を迎える事と、死んで主を迎える事とは違いがあるのだろうか。わが教会の先駆者の言葉に耳を傾けてみよう。

ジェームス・ホワイト：

「多くの者は、人が死ぬ準備ができていたら、主の再臨の備えができていていると思っている。しかし、彼らは、死ぬことと生きて主を迎える立場の違いを考えない。主にあって死ぬこと、父の御座の前で執り成すキリストに、彼らの霊をゆだねることは一つのことであり、主が人類のために執り成しを止め、大祭司の務めを止められ、敵に報復し、ご自分の民を迎えにおいでになる時まで、悩みの時を通過して生きる人々とは大いに違いがある。これらの事を認める者は、神の哀れみによって、聖徒達の完全のために、配慮されている方法に対して感謝するであろう。」(L.S of James and E.White 424)

S.N.ハスケル長老：

「調査審判において、価値あるものとされたものは、天に仲保者なくして生きるのである。彼らの経験は、この地上に住んだどのグループとも異なっているのである」(十字架とその影 221頁)

M.L.アンデレアソン：

「福音が人の内に、人のために何をなし得るかという最終的デモンストレーションはまだ将来のことである。・・・これが成し遂げられると終わりは来るのである。・・・宇宙に於いて重要な事は、人の救いではない。そう思えるが、

最も重要な事はサタンの偽りの非難攻撃から、神の御名が擁護されることである。・・・神はヨブに期待しておられたように我々に頼っておられる。・・・」

(聖所の奉仕 299-321頁)

「パウロは絶対的完全を主張しなかった。・・・が相対的完全を主張した。・・・しかし、だれがその段階(絶対的完全)に到達するだろうか。我々はそうなると信じる。黙14:4.5.の144,000人の描写を読め。・・・彼らは神のみ像を完全に反映するのである」(ヘブル書について 467.468.頁)

約束の成就是神の民の信仰にかかっている！不可能！不可能がことわざになり、罪を犯しつづけ、罪の中に救われるとの思いが広まっていないだろうか。「我々が今持っていない、多くの者が持とうとしない」特別な経験を求める人はどこにいるだろうか？各時代の争闘下巻 396頁。裁きの事、至聖所の特別のあがない、罪の除去、完全な品性について話し合うことを怖がる傾向はないだろうか。人間の哲学で単純な御言葉を信じさせなくしている。懐疑心と不信が流行していないだろうか。見よ今日の「様々な教理の風」が混乱と迷いを生んでいる。(5T, 80. イザヤ3:12.)

完全な品性？ 90歳のサラに子供が生まれ事が不可能なように、未婚のマリヤに男の子——しかも神の御子が宿ることが不可能なように、どんな優れたコンピューターを全部使っても、140億の脳細胞を持つ人類45億のコンピューター全部合わせても 霊によって生まれ変わり、霊によって霊のことを解釈する事をしなければ、それが可能だとは告白できない。「人にはできないが、神には何でも出来ない事はありません」と聖霊による告白以外は解答はない。「お言葉どうりになりますように！」これが信仰による義認だ！ ルカ1:37.38.

「アブラハムはこの神、すなわち、死人を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのである。彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた。・・・彼は、神の約束を不信仰のゆえに疑うようなことはせず、かえって信仰によって強められ、栄光を神に帰し、神はその約束された事をまた成就することができる」と確信した。だから、彼は義と認められたのである。」(ローマ4:17~22.)

自分自身を見るとたちまち、神の完全にする約束は不信と疑いに倒される。S.D.A.の中でどこに完全な人がいるかを見回すとすぐ肉の思いは不可能と叫ぶ！しかし、それでも神の約束と計画は変わらない。不利な状態であればあるほど、罪が深ければ深いほど、6千年の遺伝の法則のとりこになって、サタンが自分のものだと主張すればするほど、信仰は神に栄光を帰す方法で働くのである。信仰は愛によって働くのである。

そうでない信仰はみなまがいものである。愛はキリストから「かくもまがれる我さえ」愛されているという体験から来る。マグダラのマリヤのように墮落している者がいるだろうか。自分の無価値と罪に嘆くものがあるだろうか。天国は彼らのものである。後の雨、神の印、神のみ像ち、完全な品性は彼らのものである。それは賜物として与えられるのである。

神のさばきの時は来た！恵みのみ座にはばかりことなく大胆に出よとの招きがなされている。

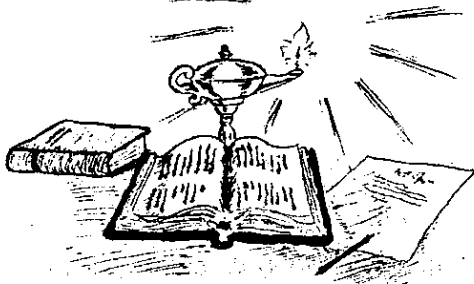
至聖所への門が開かれている。十字架の光がそこから輝き出ている！（各時代の
大争闘下巻 222頁）「人間の栄光を塵にふさせ、人にはできないことを人のためになさる神の働き——これが信仰による義認」である。十字架を仰げば人の哲学的神学論は「塵にぞひとしき」と叫ぶようになるだろう。「わが主を頭と仰ぎ見れば、力の泉は湧きてつきず、恵み深き主のみ傷みまつれば、わずかに残る火ふたび燃ゆ」。S.D.A. 信仰が消えかかりそうな人がいるだろうか。S.D.A.としての立場を見失いつつある人はいないだろうか？「疑う者の信仰を確立し、輝かしい未来に確信を与える」者は至聖所に輝く十字架を仰ぐことである。（初代文集 138）「あまりにも様々な教えがあって混乱しました」と疲れきった声で話された日米人がいた。死につつある魚を生かすのは、聖所から流れでる生ける水である。エゼキエル47:7~12。「まごころもて仰ぎまつらん・・・いとゆたけき恵みをもて、ひえたる我が心に清けき火を燃やしたまえわが主よ」 約束はまだ成就していない。しかし、義人は信仰によって生きるのである！「神のみ旨を行って約束のものを受けのため、あなたがたに必要なのは、忍耐である」
(ヘブル10:36)

※ 「生きて主を迎える事と、死んで主を迎える事の違い」プリントがあります。

※ ではどのように、いつ完全な罪なき品性に仕上げられるのか？ この研究は次回にしたい。

金城 重博





信徒からの声

知名 捷旬

「ラオデキヤにある御使いにこう書きおくりなさい。」

(黙示録 3:14)

と始まる、ラオデキヤの教会へのメッセージがあります。それは私達についてのメッセージであり、また、勧告でもあります。この中には、安心感などを与えるもの一つもありません。勧告につぐ勧告が書かれております。そして、気が付いていない自分がそこにあることを知るのであります。私は、自分達の教会がどういうところに進んでいるのかをはっきり知らなければならないと思います。

ある人が私に、こんなことを教えてくださいました。昔、再臨運動に熱心だった人々が、自分達の時代に主イエスが来られると思ひ一生懸命になって伝道し、今日の教会を支えてきました。しかし再臨が遅れた今、昔の情熱は覚めてしまい今は静かにしている。・・・あなたもあと何年かしたときにはそのような人たちと同じにならないようにしてくださいと言われたときには、実になんともいいようのないものを感じたことがあります。

ところでこのラオデキヤへのメッセージは何でありましょうか。それは、自分達の欠点に気が付くことではないでしょうか。

「富む者となるためにわたしから火で精練された金を買ひ。また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように白い衣を買ひなさい。また見えるようになるため目に塗る目薬を買ひなさい。」

(黙示録 3:18)

私達は安易な信仰、安易な説教、安易な教会生活を送っているのでしょうか。イエス・キリストの徳の高さにまで達しなさいと、聖書は勧めております。まず自分の中にある罪を認め、心を探り、罪の許しを祈り、お互いに許し合い。また、助け合うことで始めなければならないと感じます。今、私達は、安逸をむさぼっているのでしょうか。

「すべて、わたしの愛している者を、わたしは叱ったり、懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその中に入って彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」

(黙示録 3:19-20)

近ごろ、教会の中でイエス・キリストを信じれば義の衣でおおわれて、もう大丈夫だから、安心しなさい。これ以上何が必要ですか。ただ信じなさいということをよく聞かれます。私はそれは、ただの安心感を植えつけ、悔い改めに至らない安易な信仰生活をおくることになりはしないかと恐れます。世の旅路も、もう長くはありません。今というこの時、私達一人一人が、目をさましている必要があります。今一度、私達一人一人が、心の中を注意深く探る必要があります。罪からはなれ、罪のない清き生活に向けて進もうではありませんか。

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世が私達を知らないのは、父を知らなかったからである。愛する者達よ、私達は今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れるとき、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいただいているものは皆彼が清くあられるように、自らをきよくする。すべて罪を犯すものは、不法を行う者である。罪は不法である。あなたがたが知っているとおりに、彼は罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんの罪がない。すべて彼におる者は、罪を犯さない。すべて罪を犯す者は彼を見たこともなく、知ったこともない者である。子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。」

(Iヨハネ 3:1~7)

THE END

神はラオデキヤのメッセージを通して回復をもたらそうとされる。傷つけるのは、滅ぼすためではなく、ただ、癒すためである。主はどの人にも、教会を失望、落胆させるような使命を負わせにならない。神は譴責し、責め、又こらしめる。しかし、それは最終的に回復し是認するためである。

(牧師への勧告 23頁)

人の性質を正しく理解することは、すべての真の教育の基礎ともいえる。人類のあがないの計画における人の性質を研究することは、セブンスデーアドベンチストにとって特に重要なことである。

「教育という働きに包括されている内容を理解するには、人の性質と、人を創造された神の目的とを考えてみなければならない。同時にまた、悪の知識が入ってきたために生じた人間の状態の変化と、人類の教育についての大いなる御目的を今もなお成就されている神の御計画を考えてみる必要がある。」

(教育 4頁)

この主題を学ぶにあたって、特に心に留めていただきたいことを幾つか挙げてみたい。

1. 人の性質についての間違った解釈は、サタンがキリスト教会を一致させる二つの欺瞞のうちの一つである。
2. 今日、神の民の間に浸透しているキリストの性質についての間違った理解の主な原因は、人の性質を正しく理解していないことにある。
3. 悔い改め、清め等のクリスチャン経験は、人の性質の真理の正しい光に照らされてみなければ、先の雨の働きを理解してそれを感謝することはできない。
4. 教会は完全についてのはっきりした立場を持っていないが、それは人の性質についての正しい認識を得ることによって初めて、明確になり得る。
5. 健康改革のメッセージは、人の性質と関連させて学ぶときに、その正しい位置付けをすることができる。
6. この時にあって神の民にとっての特別の働きは、地上から移される備えをすることである。そしてそれは、人の性質を深く学ぶときに初めて、その備えに何が含まれているか、知的な理解を得ることができる。

これから連載する人の性質についての研究のアウトラインは完全ではない。しかし、これによって学ぶ者の前に新しい思想が開かれ、更に進んだ研究へと刺激され導かれることを望むものである。

第一課 ※※ 人の創造

◆人を創造された目的◆

1. 研究の重要性 「・・・人の性質と、人を創造された神の御目的とを考えてみなければならない。」 (教育 4頁)

2. 神の栄光の相続人 「みまえに清く傷の無いものとなるようにと、天地の造られる前から、〔字義通りには、時の始まる前から〕キリストにあって、わたしたちを選び、わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするとところに従い、愛のうちにあらかじめ定めてくださったのである。・・・わたしたちは、神の栄光の讚美のために生きるよう定められたのである。」

(エペソ 1:4,5,12 R.S.V.)

3. 神の品性を宇宙に啓示する事が人に定められた永遠の目的 「すなわち、生徒達のうちで最も小さい者であるわたしにこの恵みが与えられたが、それは、キリストの無尽蔵の富を異邦人に宣べ伝え、更にまた、万物の造り主である神の中に世々隠された奥義にあずかる務めがどんなものであるかを、明らかに示すためである。それは今、天上にあるもろもろの支配や權威が、教会を通して、神の多種多様な知恵を知るに至るためであって、わたしたちの主イエス・キリストにあって実現された神の永遠の目的にそうものである。」 (エペソ 3:8-11)

4. 創造主の宿られ宮 「輝く聖なるセラフから人間に至るまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となることが、永遠の昔から神の目的であった」 (各時代の希望 一卷 186頁) 「わたしたちは神の作品であり神の言葉は、『人は恐るべく、くすしく造られた』と宣言している。・・・主御自身が聖霊を内住せるために、てがけられたものである。」 (健康的な生き方 9頁)

5. 神の栄光の啓示 「神は人を御自身の栄光のために創造された。試みの後、人類家族は天の家族と一つになるのであった。もし、人が神のすべてのみ言葉に服従を示すのであれば、人類家族によって天の人口を増やすことが神の御旨であった」(I BC 1082頁)「神の栄光は神のかたちに造られた人類の創造の働きに、また贖いの御業にあらわされるのである。」(6BC 1105頁)「神は、創造の最高作品である人間が、すべて人間より下等なものにまさって神の思想をあらわし、その栄光を示すように望んでおられる。」(ミニストリーオブヒ〜リング 388頁)

6. 神に栄光を帰し他を祝福する 「多くの者は、自分達の創造された目的を正しく理解していない。その目的とは、人類の益となるような事をし、神に栄光を帰すことであって、自己を楽しませ、自分に栄光を帰す事ではなかったのである。」(教会への証 354頁)「青年達に、彼らの造られた目的が、神を崇め、同胞を祝福することであることを理解させよう」(人類のあけぼの 下巻263頁)「『神は自分のかたちに人を創造された』と記されている。神の御目的は、人が長く生きれば生きるほど、ますます、はっきりと神のみかたちをあらわすこと、すなわちいっそう明らかに創造主の栄光を反映することであった。」(教育 4頁)

7. 神、天使、そして他のもの達との交わりの為に創造された

(a) 「人は神との交わりの為に造られたので、人の本当の意味での生命とその発達^{いのち}は、神との交わりの中にのみ見いだされる。人は、神のうちに最高の歎息を見出すように造られているので、他のなにものによっても、心の切なる願いを満たし、魂の飢え乾きを満たすことはできない。」

(b) 「天使達との交わりの為に創造された人の心・・・」

(キリストの実物教訓 181頁)

(c) 「主は、人を交わりの為に造られ、われわれが、キリストの親切で愛の御性質が植え付けられるように計画された。そしてその交わりを通して、神の子として密接な絆で結ばれ、現在そして永遠に働くのである。」(医療奉仕 48,49頁)

8. 無我の中に幸福を見い出すように創造された 「神が人をお造りになったのは、人を幸福にするためであった。・・・」(キリストの実物教訓 268頁)「他人を益することをたずね求めることは、真の幸福の道を見い出すことである。神を愛し同胞を愛することは、人自身の興味に逆らって働くことではない。人の霊(精神)が無我であればあるほど、人は幸福なのである。なぜならばそうすることによって人に対する神の目

的を果たしているからである。神の息が人に吹き入れられ人は、喜びで満たされる。人にとって命とは聖なる委託であり、尊いものである。なぜならばそれは、他人に奉仕するため用いるよう神から与えられたものであるから。(クリスチャン管理 24-25頁)

9. キリストと共に王座につくために創造された

(a) 「わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと御旨のよしとするとともに従い、愛のうちにあらかじめ定めてくださったのである。・・・キリストにあってあらかじめ定められ、神の民として選ばれたのである。」

(エペソ 1:5,11)

(b) 「もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。」

(ローマ 8:17)

(c) 「御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪の清めのわざを成し終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。」(ヘブル 1:3) 「勝利を得るものには、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得て、わたしの父と共にその御座についたのと同様である。」(黙示録 3:21) 「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生まれさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れずしほむことのない資産を受け継ぐ者としてくださったのである。」

(ペテロ第一 1:3-4)

(d) 「仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利した者が皆、その罪を許され、再びエデンの家郷に戻って『以前の主権』を彼と共に受け継ぐ者となるように、嘆願されるのである。サタンは人類を欺き、誘惑することによって、人類の創造における神の御計画を挫折させようと考えた。しかし、キリストは今、人間が墮落しなかったかのように、この計画の実行を求められるのである。キリストは、御自分の民のために、完全で十分な許しと義認だけでなく、彼らが、御自分の栄光にあずかり、共に御座につくことを求められるのである。(各時代の争闘下巻 216頁)

◆ 神のかたち に造られた ◆

1. 人は神のかたちにかたどられた 「神はまたいわれた、『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、すべての這うものを治めさせよう』神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。 (創世記 1:26,27)

2. 神のひな型 「人を神のかたちに造られたことによって、エホバは、彼御自身のひな型を与えられた。 (健康的な生き方 9頁)

3. 神のむすこ 「土から造られたにもかかわらずアダムは神の子であった」(ルカ 3:38) 「人間は外観においても、品性においても、神のかたちを保っているはずであった。キリストだけが、天の父の『本質の真の姿』ではあるが、人間は、神に似せて造られたのである(ヘブル 1:3)。彼の性質は、神の御旨と調和していた。人間の知力は、神の事物を理解することができた。彼の愛情は清く、食欲や情欲は理性の支配のもとにあった。彼は、神のかたちをしていて、神の御旨に完全に服従していたので、清く、幸福であった。 (人類のあけぼの上巻 20頁)

4. 新しく特異な存在として 「全天は、この世界と人の創造を、深い喜びと関心をもって見守った。人は新しく特異な存在であり、神のかたちに造られた。そして彼らが地に増えることは、創造者の御計画であった。」 (バイブルコメンタリー I 巻 1801頁)

5. 人のみが神性にあずかった 「神は人をまさった存在として創造なさった。人だけが神のかたちにかたどられ、神性にあずかることの出来る者とされた。そして神の御計画の実行において創造者の協力者となるのであった。 (神のむすこ娘達 7頁)

6. 神に似せられた肉体、知能、霊性 「アダムが創造者の御手によって造られたとき、彼の肉体と知能と霊性は、神のみかたちを備えていた。『神は、自分のかたちに人を創造された』とするされている。神の御目的は、人が長く生きれば生きるほど、ますます、はっきりと神のみかたちをあらわすこと、すなわちなおいつそう明らかに創造主の栄光を反映することであった。」 (教育 4頁)

7. 神の写し 「神のかたちにかたどられて造られた人は、神の創造の傑作品であった。神の写しとなるように計画されたのである。しかしサタンは人のうちから神のか

8. 創造の最後 「この地球を最後に神は創造の働きを終えられた。」

(バイブルエコー 1888,1/1)

◆ サタンの墮落と人類の創造 ◆

1. この特別な秩序の存在を創造はすることは、初めから、一つの被造物も存在しなかったときから、神の御旨の中にあった。
(エペソ 1:4,5;3:11)

2. この計画はサタンが公に反抗する以前に天で発表された。「しかし、神が御子に、『われわれにかたどって人を造ろう』と言われたとき、サタンは、イエスをねたんだ。彼は、人間の創造についての相談にあずかりたいと考えたが、相談を受けなかったために、彼の心は、嫉妬と妬みと憎しみに満たされた。彼は、天において、神につぐ最高の栄誉を受けたいと思った。」
(初代文集 245頁)

3. こののち天父は、人間をつくって地上に住まわせる計画をすぐ実行することについて、御子に相談なさった。神は、人間が永遠の生命を確保する前に、彼らを一応ためしてごらんになることになった。人間が神のよしとみたもう試みに耐えることができたなら、ついには天使と等しい者になるはずだった。人間は神の恩恵を与えられ、天使たちと共にまじわるはずだった。神は、人間に不服従の能力を持たせないようにすることは適當ではないと、お思いになった。
(生き残る人々 30頁)

4. 「恩恵期間にあった天使達は、サタンによって欺かれた。そして更にキリストに對抗して、天における大いなる反逆に加わるように導かれた。彼らは課せられたテストを負うことに失敗し倒れた。それから、アダムは神のかたちに創造されそして恩恵期間が与えられた。」
(レビューアンドヘラルド 1874,2/24)

◆ 人類の創造の要約 ◆

1. 人の創造の計画は永遠の昔から神の御旨のうちにあった。

2 人は被造物のうちで最後に創造されたものであった。ゆえに人は神の創造の印とも呼ぶことが出来るであろう。神の御計画の中で人を創造されたのは、宇宙の秩序の中で確かな位置を成就させるためであった。

3 自由意志の能力を持った多くの被造物の創造は、神に罪の可能性と対面させた。神はこの状況にどう対処するか。神は人を土の塵から創造されるが、人は神の写しとなるはずであった。教育を通して人を引き上げ、宇宙の御座に神の御子と共に座するようにさせるはずであった。この新しい秩序の存在、神の創造の傑作品である人は、神の品性の知恵と栄光を全宇宙にあらわし、創造者の品性の啓示はこの器を通して決定的なものとなり、そのため宇宙における罪の存在を不可能なものにしてしまうのが神の御計画であった。明らかに人の創造は、宇宙に神についての新しい啓示をもたらすためのものであり、実にそれは、宇宙を墮落から守るための最高の啓示となるのであった。

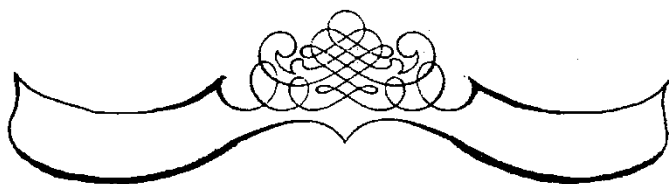
4 人の創造についての計画が天で発表されたとき、ルシファーは、天父と密室の相談に携わったキリストに対して嫉妬の思いを抱いた。更にまた、いつかは彼自身よりも創造者との密接な関係に入るであろう人に対しても、同様な思いを抱くようになった。

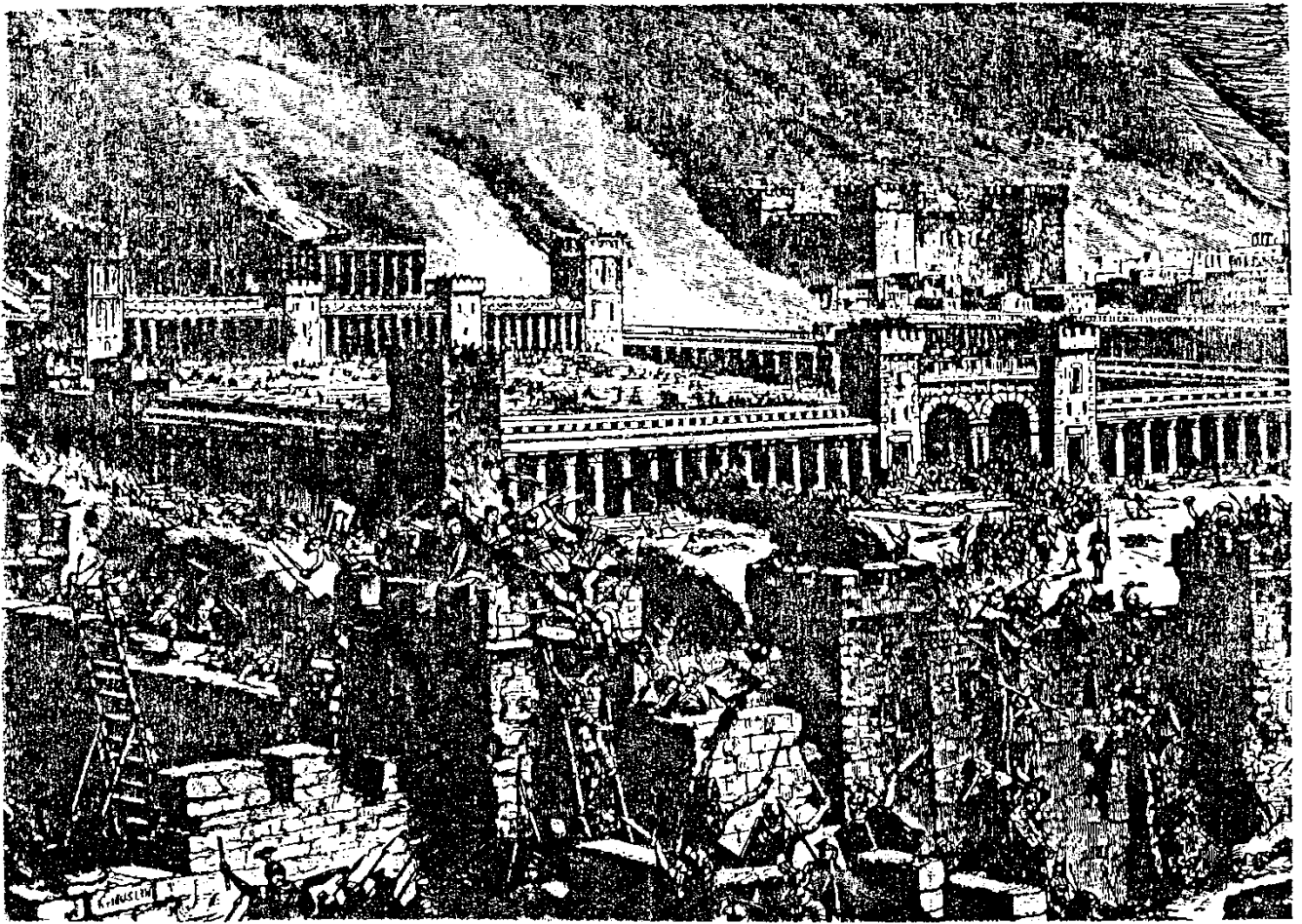
5 ルシファーと彼の仲間の天使達は、神聖な愛の律法に対抗し天から追放された。宇宙はかつて罪なるものを知らなかったが、今や天は、危険にさらされるようになった。

人を創造する計画はただちに実行に移された。神の御品性の新しい啓示を宇宙が必要とする時が、今、来たのである。人は神のかたちにかたどられ、神の栄光をあらわすように造られた。エホバの律法に完全な服従を捧げることによって、サタンの主張—神の律法は利己的で守ることは出来ない—を覆すはずであった。

全天は非常な関心をもって、神が御自身のかたちに命のない土の塵から人のかたち造られる創造を見守った。人を取り扱われるすべての事に関して、神は愛と、ヘリ下り、無我の品性をあらわされることによって、神は利己的であるというサタンの抗議に対して永遠の終止符を打たれるのである。そして人は、その神に対する感謝と無我の愛の応答をもって、神の愛の律法にに対する服従の新しい啓示が宇宙に与えられるのである。こうして宇宙が、神の律法の完全な義とあわれみに一つの声で同意するするとき、サタンと彼に従う者達は滅ぼされ、宇宙は永遠に背教から守られるのである。

(人の性質のシラバスからの訳 K. C.)





エルサレムはもし教会が、神が与えられた光に歩むことを拒むならばどんな結果になるかということをお示ししている。エルサレムは委託物の貯蔵所として神から寵愛されてきた。しかし神の民は真理を曲げすべての嘆願と警告を軽蔑した。・・・キリストは、我々の教会と教育機関の為に泣いておられる。・・・我々はこの時代に神の計画を拒むことによって、エルサレムの罪を繰り返している。

(8 T 67,68頁)

「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者達を殺し、おまえにつかわされた人たちが石で打ち殺す者よ。丁度、めんどりが雛を集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」

(マタイ 23:37)

古代イスラエルと現代イスラエル

1. 我々神の民はイスラエルの歴史をよく学ぶ必要があるだろうか？

- 1) RH11-5, 1889-過去に神がどのように人間と国家を取り扱われたかを学ぶことによって、そのメッセージを敬い、それに従い、警告と勧告に従うように神は我々に望んでおられる。
- 2) 大下35-各時代にわたって、地上で行なわれる神の働きには、どの大改革や宗教運動を見ても、著しい共通性がある。神が人間を扱われる原則は、常に同じである。現代の重要な運動は、過去の運動と類似しており、昔の教会の経験は、我々の時代に対して大きな価値のある教訓を与えている。
- 3) 4 T 27-我々の歴史とイスラエルの歴史との間には著しい類似点がある。

2. 現代イスラエル (S. D. A) に古代イスラエルの歴史が繰り返されることがあるだろうか？

- 4) 1 SM406-キリストの初臨の前のイスラエルの子らの試みと彼らの態度は、キリスト再臨の前の神の民の経験と立場を例証することを私は幾度も幾度も示された。
- 5) 2 SM 111- サタンは現代の真理を信じると主張する者達の経験の中にユダヤ国民の歴史が繰り返されるように働いている。
- 6) 8 T 67,68- エルサレムは神がお与えになった光に従うことを拒むなら、教会はどうかということを描写している。... 今日我々の時代に神の警告を拒むことによって人々はエルサレムの罪を繰り返している。... そのようにキリストが我々の教会のために、学びの機関のために、神の要求を満たすことに失敗したため、泣いておられる。
- 7) 1 SM 390- 主は、我々が最後の働きに入るときに、過去の歴史が繰り返されることを宣言なさった。
- 8) 5 T 75-76- 世の精神が速やかに教会をバン種のように脹らませているのを私は示された。あなたがたは古代イスラエルと同じ道をたどっている。神の特別な民としての聖なる召しから同じように落ちている。光に従うことを怠るなら、キリストが災いを宣言なさったユダヤ人よりもっと不利な立場にあなたがたを置くことになるだろう。

3. 古代イスラエルと我が教会の歴史はどれほど似ているとされているか？

9) 4 T 27-我々の歴史と古代イスラエルの歴史との間には著しい類似点がある。

10) 大下 182- 昔のイスラエルの歴史は、再臨信徒の団体の過去の経験の、顕著な実例である。

4. 現代の我々の教会も背教しているのか？

11) ST SERIES B, 37.13-16:11-20, 1905 - 彼らは引き返そうとはせず、今や心の強情さは彼らを望みなき背教へと、神のさばきに備えている。

12) 同 P 56-57.12-4, 1905- 一つ確かなことが間もなく分かるようになるだろう - それは大背教が、今発展しており、勢いを増していき、はなはだしく強くなって、主が天から大いなる声を持って下って来られるときまで続くであろう。

13) 3 SM 408(1907)- 御霊がはっきり語っていることは終わりのときには惑わす霊に誘われて、悪魔の教えに氣をとられ、信仰から離れる者があるであろうということである。この背教の時はここに来た。我々が半世紀も保持して来た立場に疑いを投げかけようと、考えられるあらゆる努力がなされるであろう。

18) の引用文を見よ

14) 5 T 217 (1882年、5-13に書かれ、1889年に出版) - 私は民としての我々の状態を考えると、悲しみに満たされる。主が天を我々に閉ざされたのではない。我々の絶えざる背教が我々と神との間を隔てたのである。... それでいて、教会は栄え、平和と霊的繁栄が教会のどこにもあるというのが一般的な考えである。教会はそのリーダーであるキリストに従うことに背を向けて、着実にエジプトに後退している。

5. いつから背教は発展してきたか？ごく簡単に説明。

15) 初文205- (1852) ラオデキア教会に宛てられた言葉が、彼らの現状を描写している。

16) NOTEBOOK LEAFLETS, P 99- (1859) 教会はラオデキア状態にある。キリストの臨在はそこの中にない。

17) RH8-26, (1890)-私はミネアポリスの集会の時以来、かつてないほどのラオデキア教会の状態を見せられた。

18) LETTER, ELMHAVEN 1-15, (1903) - 去った世界総会の結果は私の生涯において最も大きな、つらい悲しみをもたらした。何も変わってはいない。

19) SERIES B #2 16 (1904) - 背教のアルファの危険が今我々の目の前にある。オメガは最も驚くべき性質のものになる

11) から13) の引用文を見よ!

20) 2SM 380- 教会は今にも倒れるかのように見えるが倒れはしない。それは
存続するのである。その時シオンの罪人は震われ、もみがらは
尊い麦より分かたれる。これは恐ろしく苦しい試練であるが、それでも起こ
らなければならない。

* 患上3- 世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成していた。

* TM45- 神は生ける教会を持っておられるだろうか? 彼は教会を持っておられる。しかし、それは戦いつつある教会で、勝利の教会ではない。

* The Upward Look 315- 神は教会を持っておられる。それは大聖堂でもなければ、国立教会でもなければ、様々な教派でもない。それは神を愛し、その戒めを守る人々である。「ふたりまたは3人が、私の名によって集まっている所は、私もその中にいるのである。」マタイ18:20 心へりくだる小数のものの間にさえキリストはご臨在なさる、これがキリストの教会である。なぜなら、永遠に居ましたもう、いと高く、いと聖なるお方のご臨在だけが教会を構成する事ができるのである。

* 2 T 445- 今真理を信じていると告白している者の小数のものがついには救われる。

* 5 T 136- まもなく神の民は激しい試練で試みられる。今本物で、真実のように見える者の大部分の者が金屑であることが明らかにされるであろう。チャンピオンはわずかである。

* 5 T 81- 多くの星がその時間に消え去る。

* 大下378- あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言しながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方でものごとを見るようになっている。

* 5 T 80- 偉い人はわずかしかたずさわらない。

* LLM132- 主は我々が今は見る事ができない手段をご自分の働きを完成するためにお用いになるであろう。... 平凡な男女を起こされる。

* 初文437-9- 教会の罪を嘆き悲しむ者達に聖霊降下、そして大いなる叫び

* 大下376- 働き人は、学歴でなくて、聖霊を注がれることによって資格が与えられる。

6. どのように教会に背教が入って来たか?

21) 人あ72,73,66- 友愛という名目のもとに異邦人と交わることに始まる。

- 22) 大下247-古代イスラエル人は禁じられていた異邦人との交際に足を踏み入れたときに、罪に誘惑された。同じようにして現代のイスラエルも道から外れている。
- 23) 指導者達によって-1 SM 407,408
キ実284,270 民族をキリストから離れさせたのは祭司と教師達。
- 24) 徐々に、気付かれないように、国指上30 TM 359 突然きたのではなかった
(1)ヨルダンの背教もそうであった。
(2)初代教会もそうであった。大上43,44
(3)我が教会もそうである。
(4)カトリックの働きはそうである。大下341
- 25) サタンが教会のために備えた最も危険なわなは教会員の中から。5 T 477
- 26) 世の方針、世の原則を持ち込むことによって 6 T 54

7. サタンは最もどこに働くか？

27) 4 T 210-211-サタンの主要な働きは我々の教会の本部に対してである。

8. 我々は古代イスラエルと同じ不信仰、不服従、失敗をしているだろうか？

28) 大下182 -不信が彼らを神から引き離し、再臨を延ばしている。

29) 5 T 456-457-同じ不服従と失敗。

9. それではユダヤ人と同じ危険があるのか？

30) RH11-2,1886-我が民の多くは神から背教している。．．．彼らはユダヤ国民のように危険を犯している。

31) 8 T 133-これらの警告に注意を払わなければ、エルサレムを墮落させた悪が我々の上にもたらされるであろう。

32) 2 SM 378- 中の腐敗が（エルサレムがそうであったように）、この民に神の非難を招くのである。

33) 国指上270 -しかし、圧倒的と思われた外部からの危険は、内部の危険ほど重大なものではなかった。

34) RH3-22,1887-我々は外からよりも中からはるかに恐れるものがある。力と成功の妨げとなるものは世からよりも教会からのほうがはるかに大きい。

35) 1 T 608-9-現代のイスラエルは古代の神の民よりも神を忘れ、偶像礼拝に導かれる危険は更に大きい。多くの偶像が、安息日遵守者によってさえ拝まれている。

*現代のバール礼拝とは？ - 「今日多くの人々は神よりも人間を高め、人気ある指導者を称賛し、富を礼拝し、啓示の真理よりも科学を尊重してバールに従っている。」国指上139

「偽りの教理や理論という偶像を刻むことは、木や石の偶像を刻むのと同じに容易である。サタンは、神の属性を誤り伝えることによって、人々に神についての誤った品性を想像させるのである。多くの人々にとって、主の変わりに哲学的偶像が王位を占めている。一方、み言葉の中に、キリストの中に、そして創造のみ業の中に啓示された生ける神を礼拝する人は少数にすぎない。幾千の人々は、自然を神格化しながら、自然の神を否定している。形こそ違おうが、偶像崇拜は、今日のキリスト教界にも、古代イスラエルのエリヤの時代と同じようであったと同じに存在している。自ら賢人と称する多くの人々、哲学者、詩人、政治家、ジャーナリストたちの神洗練された上流社会、多くの大学、はては幾つかの神学校の神も、フェニキヤの太陽神バールとほとんど変わるところがない。」大下、344.5

5780 gods may and have many

36) 8 T 119- ユダヤ人達が神の目的を遂行することに失敗した事が神の祝福が成就するのを不可能にしたのであった。今日の教会は同じ事をしていないだろうか。... ユダヤ教会より彼らは罪が軽いと言えるだろうか？

37) 3 T 353- イスラエル人の旅の経験が記録されたのは、この時代に生きる者達、また世の終わりに臨んでいる者達の益のためであると、パウロは、はっきりと述べている。私たちは、自分達の危険がヘブル人のそれほどではないと考えるが、実際にはそれ以上である。

38) 1 T 128-9 -わたしは神のみ旨に対する大いなる不献身を見た。... この最後の時代の真理を信じると自称する多くの者が、イスラエルの旅行中のつぶやきを見て、また神が彼らのためにすばらしい扱いをされた

事を忘れて感謝もしないのを見て、不思議に思うのを見た。天使は言った。
「あなたがたは彼らよりももっと悪い事をしてしまった。」と。

10. 預言者はどんなに嘆いたか？

39) 8 T 68- そのようにキリストが我々の教会のために、学びの機関のために
神の要求をを満たす事に失敗したために泣いておられる。

40) 5 T 77- 私はめったに泣かないが、しかし今私の目は涙でかすみ、これを書
きながらも紙の上に溢れ落ちている。これ以上民の間に預言はなく
なり、民をゆすぶった声は彼らの眠りを妨げなくなるであろう。

41) 5 T 93,94- 私の心は夜となく昼となく痛み続ける。．．．イスラエルの罪
は、神の明らかなみ旨を拒んで、自分達の汚れた心のままに歩
んだ事であった。現代イスラエルは、彼らの歩みに急いでつき従っている。
主の怒りは（不興）、同じくらい確実に、彼らの上に注がれている。

42) 5 T 217- 私は民としての我々の状態を考えると、悲しみに満たされる。
引用文14)を見よ。

11. 教会はどの方向に進んでいるか？

43) 5 T 217- 教会はそのリーダーであるキリストに従うことに背を向けて、着
実にエジプトに後退している。

44) 5 T 93- 多くのものは進んではいるが、後ろに向かって進んでいる。

45) 2 T 124- 多くのものは長年のあいだ知識と神の聖潔に進歩していない。彼
らは霊的小人である。完全に向かって前進しているのではなく、
暗黒とエジプトの奴隷の身分にもどりつつある。

46) T M 359-60- 彼らはローマニズムの道を歩んでいる。．．．人間の判断で、
規則に、決議を考案し、他にそれを押し付ける。規則、規則が
彼らの取った道である。支配し、力を得るようになると、彼らは自分達の原
則を弁護するためにサタンの方法を使う。彼らは優れた判断の持ち主として
自分達を高める。そして神の代わりとして立つ。これらは偽りの神々である

12. 世界總會、カンフェランスの権威について何とされているか？

47) MS 37, P38.4-1, 1901- それにもかかわらず、我々はカンフェランスは神の声
であると言うことを聞く。それを聞く度に私は、それ

は冒瀆だと思った。カンフェランスの声は神の声であるべきであるが、そうではない。なぜなら、それとつながっている者達は信仰と祈りの人ではなく高い原則に立つ者でもないからである。

48) GCB 23,4-11901- これらの人々は聖なる所に立って民に向かって神の声となるべきであったし、かつて我々が信じていたように、世界総会は神の声であると思った事は、もう過去の事となった。

13. 教会の悲しい状態が診断されていながら、教会の一般的な考えは何か？

49) 5 T 217- 教会は栄え、平和と霊的繁栄が教会のどこにもあるというのが一般的な考えである。

14. 古代イスラエルと同じ結果を刈り取る危険は考えられるか？

50) 4 T 165-67 しかし、今日のイスラエルは昔のイスラエルのようにけんせきを悔い、勧告を憎む同じ誘惑を受ける。...

悔い改める事と神のみ言葉に服従を怠ることは、古代イスラエルに臨んだと同じように、今日の神の民の上に恐ろしい結果をもたらすであろう。もうこれ以上神のさばきを遅らせる事には限度がある。エルサレムの荒廃は今日のイスラエルの目の前に厳粛な警告として立っている。選ばれた器を通して与えられた矯正は無視して無難であり得ない。

51) RH11-1890-もしイスラエルのように警告と訓戒に対して同じ態度をとるなら彼ら（現代のイスラエル）にも古代イスラエルに臨んだように、この最後の時代にも同じ結果が臨むであろう。

**「教会を神は導いておられる、教会の指導者を導いておられる何も心配する必要はない、指導者の指導に従っていれば安心ではないか」とイスラエルは言わないだろうか？

イスラエルが亡ぼされる前も、ユダが亡ぼされる前も、エルサレム滅亡の前も、同じような事を言うように欺マンに陥っていた。エレミヤ6:17,5:12 ミカ3:11

52) 大上 15-エルサレムに対する神の忍耐は、ただユダヤ人をかたくなな不信に陥れるだけであった。彼らは、イエスの弟子達を憎み、虐待して最後の憐れみの招きを拒んでしまった。その時、神は彼らから保護の手を引き、サタンとその使いたちに対するの抑制力を除去された。そして国家は、選んだ指導者のなす

ままになった。イスラエルの人々は、邪悪な衝動をしずめる力を彼らに与える事のできるキリストの恵みを退けてしまった。そこで、今度は、こうした衝動が優位を占めた。サタンは、人間の心の中の最も激烈で卑しい感情を呼び起こした。人々は、道理をわきまえなかった。彼らは理性を越えた衝動と盲目的な激しい怒りに支配された。彼らは、悪魔的残酷さを表して来た。．．．彼らはもう神を恐れなくなった。サタンが国家の頭となった。そして政治と宗教の最高の権威者達は、彼の支配下にあった。．．．しかし、この凶悪な行為の扇動者達は、その盲目で神をないがしろにした思い上がりから、エルサレムは神ご自身の都であるから、滅亡する恐れはないと公言していた。彼らは権力を確保するために、偽予言者を買収して、ローマの軍隊が神殿を包囲しているとき時でさえ、神の救いを待つ人々に言わせた。群衆は、至高者であられる神が敵を亡ぼすために介入なさることを、最後まで信じていた。しかし、イスラエルは、神の保護を退けてしまっていたから、今、何の防備もなかった。

※2 SM 380の引用文の「教会は落ちかかるように見えるが、落ちはしない」ということはどんな意味か、それに続くことばをみていただきたい。「恐ろしい震い、試練」を経験してから難攻不落の神の都になるのである。大部分の者が教会から一掃され、教会の背教を嘆き悲しむ者達、小数の者達が印され、御霊の充満を受けて、最後の戦いに突入するのである。

16. こんなに時が延ばされているのはなぜか？

53) RH 12-23, 1890-教会は露、雨、太陽を受けて豊かな実を実らせるはずであったが、神の目には葉以外はなににもなかった実らない木のようなものである。我々の教会にとって何という厳粛な思いであろう。しかし、「悔い改めなければ」それは枯れてしまう。教会や、我々の機関はますます弱くなっていくであろう！一人々々にとって本当に厳粛なことである！~~弱く~~ べきは神の怒りである。しかし、「悔い改めなければ」それは枯れて、冷たい形式主義から死に向かうであろう。(黙示録3:17を引用) 彼らは自分達の真の状態を知るだろうか？(2回もこの質問を繰り返している)

54) 大下182-183-キリストの再臨がこのように遅れ、神の民がこのように長く罪と悲しみのこの世にとどまる事は、神のみ心ではなかった。しかし、不信が、彼らを神から引き離した。．．．イエスは、世界を憐れんで、彼の再臨を延ばしておられる。それは、罪人に警告を聞く機会を与え、神の怒りが注がれる前に、主のうちに避難させるためである。

17. 神の忍耐と憐れみにもかかわらず、多くのものはどうするか？

- 55) 5 T 76- 神が忍耐しておられるのには目的がある。しかし、あなたがたはそれを無にしている。
- 56) 大上15-エルサレムに対する神の忍耐は、ただユダヤ人をかたくなな不信に陥れるだけであった。
- 57) 伝道8:11- 悪しきわざに対する判決が速やかに行なわれないために、人の子らはもっぱら悪を行なうことに傾いている。
- 58) ロマ2:4-6-神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その慈愛と忍耐と寛容との富を軽んじるのか？あなたのかたくなな、悔い改めない心の故に、あなたは神の正しいさばきの現れる怒りの日のために神の怒りを自分の身に積んでいるのである。神は各々に、そのしわざにしたがって報いられる。

18. 神の忍耐には限度があるか？

- 59) 5 T 208- 主が神を恐れぬ者、真理を愛さないものたちに行使されてきた忍耐と長い寛容とによって和らげられる代わりに、彼らは悪の道に心を硬くする。しかし、神の忍耐にさえ限度がある。そして多くのものはその限界を越えつつある。
- 60) 3希 25-どの時代にも、光と特権の日、すなわち神と和解する恩恵の時が人々に与えられている。しかし、この恵みには限度がある。何年間人々に訴えても、恵みは軽んじられ、拒まれるかもしれない。しかし恵みが最後の訴えをする時が来る。心はかたくなになって、神の御霊に答えなくなるすと、人を引きつけるやさしいみ声はもはや罪人の心に訴えなくなり、けん責と警告は止む。

19. 人間が神の限度を越えるとどうなるか？

- 61) 大上25- 我々は、自分達の享受している平和と保護が、どんなに多くキリストに負うものであるかを知ることができない。人類が全くサタンの支配下に陥らないようにしているのは、神の抑制力である。．．．しかし、人間が神の忍耐の限度を越えるとき、この抑制力は取り除かれる。
- 62) 8 T 250- 「これはおのが道を選び、その心は憎むべきものを楽しむ。わたしもまた彼らのために悩み（英文：惑わし）を選び、彼らの恐れるところの

ものを彼らに臨ませる。これはわたしが呼んだ時に答えるものなく、わたしが語ったときに聞くことをせず、わたしの目に悪い事を行ない、わたしの好まなかったことを選んだからである。」そこで神は彼らが偽りを信じるように惑わしの力を送り、こうして真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人をさばくのである。」「彼らが滅びるのは自分らの救いとなるべき真理に対する愛を受け入れなかった報いである。」(イザ+66:3,4 第二テモニカ2:11、12、10)

「今や背信の色濃き教会がおのれの状態を悔いて立ち返らなければ、自分を忌み嫌うようになるまで自らまいた種を刈りとることになるでしょう。もし教会が悪に抵抗して善を選び、謙遜に神を求め、キリストにあるその高い召しに応じ、永遠の真理の土台に立ち、信仰によって、その到達すべきところを求めてやまないならば、癒されるでしょう。」

20. サタンはどのように人々を欺くか?

63) 人あ下154- 神が、神の民を愛される愛は非常に大きいから、民の罪をお許しになるという尤もらしい説を唱えて、サタンは人々を欺くのである。神の脅迫の言葉は、神の道徳的政府のなかで、ある種の役割を果たしはするが、それは文字通り成就するものではないと、サタンは言うのである。

64) 人あ18- 神は非常に恵み深いから、罪人を罰せられないと、人間は、自分かってな考えを抱くものである。

編集：金城優子、金城重博



神の信仰

人間の神への不信と著しい対象をなしている一大事實は、神の人間に対する信仰である。御自分の御子を罪深い人間に賜うということは神の側の信仰の行為である。神は、人間が神の愛に応答すると信じたのである。キリストのゲッセマネの園での大決心は信仰の行為であった。彼の無限の愛の賜物に応答する民がきっと出現するであろうとの保証がいったいどこにあったのであろうか。愛は「すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える」のである。我々が預言者達の言葉を読むとき、神の民にさえその愛が恥ずかしくも軽蔑され、拒まれて、神がどんなに悲しんでおられるかを見せられる。しかし、預言者達の使命に表されている驚くべきことは神が人類に対する輝かしい御計画にその信仰を失わなかったことである。

神の心理学は富める人がそのすべての財産を任せるために常習犯の盗人を招き入れるようなものである。あるいは自分の息子が殺された富める人にたとえられようか。自分の息子を殺した犯人を世界中を探し回って、ついに見つけて、「あなたは私の息子になってほしい」というのに似ている。不可能なこと？ そうだ、神はそうなされたのである。

愛は「すべてを信じ、すべてを望む」ものである。イエスが退化し、墮落した人間に会われたとき、信頼と信任を示された。人々はそんなに純潔な、清いお方が彼らを愛し、信頼されるかということに驚き、感動した。信頼された彼らは応答した。それ以来多くの者は、主の期待を失望させ、その信頼を裏切るよりはむしろ死を選ぶことのデモンストレーションをしたのであった。

神は罪人に出会い、「わたしは大いにあなたを信頼している。」と言われる。後ずさりさせないように、罪人をしてこれほどブレーキをかけるものはない。信頼を裏切ることには大変に難しい事である。罪人にとってとげのあるむちを蹴ることは難しいことである。

サタンの心理学は疑いと疑惑に立っている。彼はいつもそれをもって人間に当たる。ヨブの経験に興味深いことをみる。しかし、神はヨブの忠誠に御自分の誉れをかけるほど信仰を持っておられたのである。神は間もなく144,000人にその誉れをすべてかけられるのである。それは人類に対する神の信仰の完全にして、最後のデモンストレーションになるであろう。

(訳：S. K.)

TV - 現代の怪物

TV告白の専門ジェリーマンダーは、十五年の研究の結果を次のように発表した。

「TVは破壊力を持つ最も危険な怪物である。・・・僅かな人しかコントロールできない。人間の感覚を鈍らせ、現実の世界への意識をかすませる。」

ワラワラカレッジの心理学者シェーファー博士は、子供達のためのベストのプログラムはどうかとの質問に対して・・・

「我々の研究の結果、ますます確信づけられることは、子供のTVプログラムはどんなものであっても勧められないということである。」

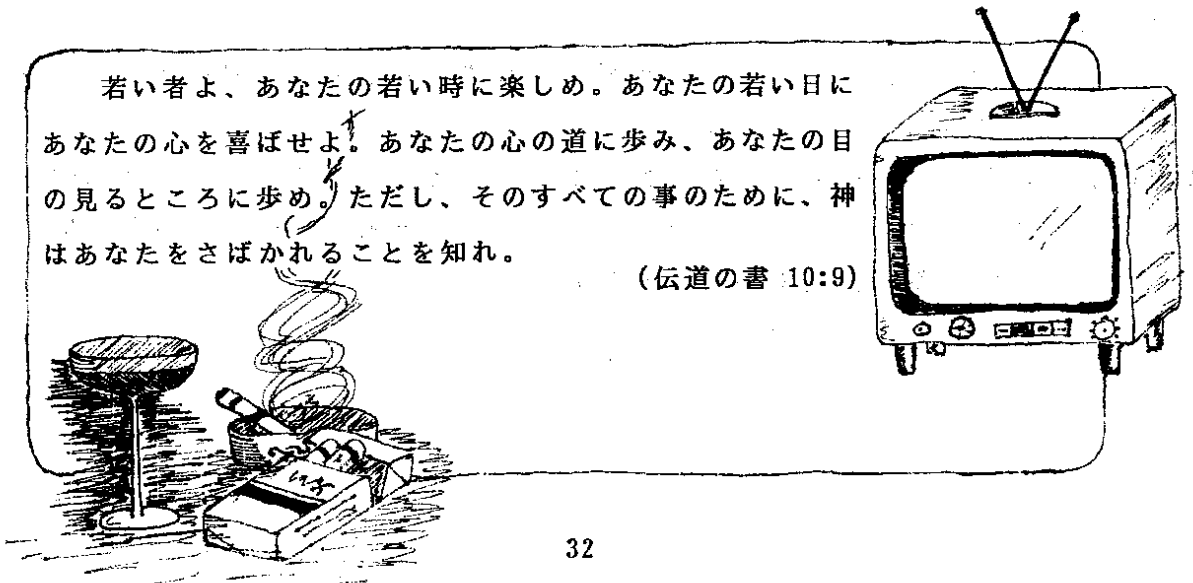
そして次のような理由を上げている。

1. 独創的な想像と自分をコントロールする能力を減少させる。
2. 価値観をゆがめ、良心を曲げる。
3. 暴力を問題解決としてみるようになる傾向をおおいにつちかう。
4. 興奮を感じさせない物に集中する能力を減少させ、また物事に集中する時間が短縮する。
5. 現実に対処する能力を減少させる。
6. 人間関係、コミュニケーションの発達を妨げる。
7. 現実の世界と、創造主と、重要な事柄に感謝する気持ちを失わせる。

★ 人類のあけぼの下巻 73頁：参照

若い者よ、あなたの若い時に楽しみ。あなたの若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたの心の道に歩み、あなたの目の見るところに歩め。ただし、そのすべての事のために、神はあなたをさばかれることを知れ。

(伝道の書 10:9)



信仰から学ぶ教訓

「信仰による義人は生きる」(ローマ1:17)

E. J. ワゴナー

この聖句は使徒が福音について何を言わんとしていたかの要約である。福音とは救いに至る神の力なのであるが、「全て信じる者に」だけ与えられる。その中に神の義が表されているのである。神の義とは完全な神の律法である。それは神御自身の義なる意志の写しにすぎない。全ての不義は罪、また不法である。福音とは罪に対処する為の神の治療(法)その働きであり、それ故、人を律法に調和させるものでなければならない。——義なる律法の働きが彼等の生活に明らかにされるものでなければならないのである。しかし、これは全く信仰の働き——神の義が「信仰から信仰」へと表される。——「信仰による義人は生きる」と書かれている通り、信仰で始まって、信仰で終わるものなのである。

このことは人が墮落して(罪を犯して)以来、いかなる時代においても真実であり、神の聖徒達はその額に神の名を持ち、その御顔を仰ぎ見る時までずっと真実なのである。使徒が用いた言葉は、預言者ハバククの書(2:4)から引用したものである。もし預言者がこの事をあらわさなかったら、初代クリスチャン達はそのことを知ることができなかったであろう。何故なら彼等には旧約聖書しかなかったからである。ならば古代の人々はキリストにある信仰の不完全な観念しか持っていなかったというなら、当時義人はいなかったということになる。しかしパウロは初めの時代にさかのぼり、人を救う信仰の例をあげてこう述べている。

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ信仰によって義なる者と認められた。」(ペブル11:4)

パウロはまた、ノアが自分の家族を救ってくれた箱舟を作ったのも、信仰によってであったと述べている。

「……その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。」(ヘブル11:7)

彼等の信仰はキリストにあるものであった、といえる。なぜなら、それは救いに至る信仰であり、イエスの名以外に「わたしたちを救いうる名は……天下のだれにも与えられていないからである。」(使徒行伝4:12)

過去の罪の許しの必要を自覚した時に働かせた信仰の力だけで、クリスチャン生活を生きようとする人があまりにも多い。神だけが罪をゆるすことのできるお方であり、神はキリストを通してそれを成される。ということを知っている。しかし一度走り出してしまった以上、競争は自分の力で走り抜かねばならないと彼等は考えるのである。多くの者がこのような考えを持っていることを我々は知っている。第一に、ある人達がそういうのを聞いたから。第二に、自分達の力以上の働きをあらわさないクリスチャンの群衆であふれているためである。集会で幾度も繰り返される信仰告白「私はクリスチャンになりたい、そうすれば私は救われるであろう。」以外に彼等が何か言うことがあるとすれば、それは彼等の過去の経験、彼等がはじめ信じた時に経験した喜びのことだけである。神の為に生きることの喜び、信仰によって神と共に歩む喜びについては、全く知らない。そして、それを語る人の言葉は、彼等にはちんぷんかんぷんなのである。しかし、使徒は栄光の王国に至らせるこの信仰の事柄を、次の最も力強い言葉のうちに明らかに示している。——

「信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれたものと、あかしされていたからである。（ヘブル11:5）

エノクは信仰によって天に移された、ということに注目していただきたい。エノクは神と共に歩んだので天に移された。そして神に喜ばれた者とあかしされていた。しかし、信仰がなくては、神に喜ばれることは出来ない。これは論点を証明するのに十分な言葉である。信仰がなくては、どんな行いも神に承認されることは出来ない。信仰がなくては、人がなし得る最善の行いも、唯一の標準（基準）である神の完全な義にほど遠いものなのである。どこでも真の信仰が見られるのは良いことなのであるが、神にある最善信仰が常に成長して恵みの期間が閉じるまで貫かれなければ、過去の罪の重荷を取り除く信仰は、その人にとって何の益にもならない。

正しいことをするのはいかに困難な事か、多くの人達がそういうのを我々は聞いてきた。彼等のクリスチャン生活は、失敗によってのみ特徴づけられ、意気消沈してあきらめそうになる。というように、はなはだ不満足なものなのである。彼等が意気消沈するのも無理はない。継続的な失敗は誰をもがっかりさせてしまう。どんなに勇敢な兵士でも、行く戦場どこでも敗北を味わえば、その勇敢な心もくじけてしまうであろう。時たまこのような人達が悲しみながらも殆ど自信が無くなったということがある。なんと哀れな人達であろう。もし彼等が自己への信頼を全くなくして、人を救うに勇ましい御方に全く信頼していたなら、彼等の語る言葉は全く違っていたであろう。そのとき彼等

は、主イエス・キリストを通して神にある喜びを味わっていたであろう。使徒はこう述べている。

「あなたがたは主にあっていつも喜びなさい。繰返して言うのが喜びなさい。」
試みられても苦しめられても、神にあって喜ばない人は、信仰の戦いを立派に戦っているとはいえない。自信と敗北の気の毒な戦いを戦っているにすぎない。

究極の幸福の御約束が勝利者に与えられている。イエスはこう言われる。

「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。」

「勝利を得るものには（すべてのもの-KJV)を受け継ぐであろう。」

(黙示録 3:21, 21:7)

と主は言われる。「勝利を得る者」が勝利者である。受け継ぐことが勝利することなのではない。それは単に勝利したことに対する報酬である。勝利することは、肉の欲、目の欲、持ち物の誇り、また自我と放縦に勝利することによって得られる勝利のことである。戦って敵が屈服するのを見れば、その人は喜ぶことだろう。誰も彼の喜びをとめることは出来ない。なぜなら喜びというのは敵が屈服するのを見たと同時にその人に来るものだからである。ある人達は、自己と世的な欲望に対してひっきりなしに戦わねばならないという考えに恐れを抱く。それは彼等がまだ、勝利の喜びの味を知らないからである。彼等は敗北しか味わったことが無いためである。けれども、勝利の続くかぎり、ひっきりなしの戦いは、それほど悲しむべきものではない。これまで経験した数多くの戦闘で常に勝利してきた老兵士は、いつでも戦闘の場にいたいと望む。アレキサンダーの指令下において全く敗北を知らなかった兵士達は、いつでも戦場にいきたがった。経験した勝利の一つ一つが彼等の力を強めていた。その力は勇気によってのみ生まれ、それに応じて征服された敵の勇気はくじかれていった。さて、我々が霊的戦闘において、いかにして絶え間ない勝利を得ることができるのだろうか。

イエスに愛された弟子に耳を傾けてみよう。――

「なぜなら、すべて神から生まれた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。」(ヨハネ第一 5:4)
使徒パウロの言葉を再び読んでみよう。

「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのはもはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのために御自

身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」

(ガラテヤ 2:19,20)

ここに力の秘訣がある。それは神の御子キリスト、天と地のもろもろの力が与えられている御方が、その働きを成して下さるのである。もし彼が働きを成して下さるために、心の中に住まわれるのなら、常に勝利が得られるというのは高慢であろうか。そう、それは高慢ではあるが、主にある高慢である。そして、それは許されていることである。詩篇記者はこういつている。

「わが魂は主によって誇る。」(34:2) そしてパウロは

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、私もこの世に対して死んでしまったのである。」(ガラテヤ 6:14) と言っている。

アレキサンダーの兵士達は無敵と考えられた。何故？生まれつき敵よりも強力で勇敢であったためか。否、彼等がアレキサンダーによって指揮されていたためである。力の源は彼の治める統率力ににあった。他の指揮官のもとでは彼等でも度々敗れることがあったろう。連合軍がウィチェスタの敵の前で慌てふためき逃げ惑っていたとき、シェリンダが現れたことにより彼等の敗北は勝利に変わった。彼がいなければ兵士達は単に震えおののく群衆であった彼を頭としたときの彼らは無敵の軍団であった。このような指揮官のもとで戦って勝利した兵士達の話の話を聞いてみると、たいがいは喜びのうちに自分達の大將をほめ上げている声が聞こえてくるはずである。指揮官が強かったので彼等は強力な軍団でいられたのである。指揮官が有していた同じ精神に彼等はあずかったのである。さて、我らの指揮官は万軍の主である。彼は最も手強い敵と戦い、御自身でそれに打ち勝たれた。彼につづく者は必ず征服しながら前進することができる。彼に従い行くと公言する者は彼に信頼を置くようになる。そしてその時、絶え間ない勝利を得ることによって、彼等を闇から驚くべき光に召して下さった御方をほめたたえるのである。

ヨハネは、神から生まれた者は、信仰によって世に勝つ、と述べている。信仰が神の武器をつかみ、その強力な力が働きをなし遂げるのである。神の力がどのように人のうちに働いて、彼自身の力では成しえなかった働きをするのかは、誰も説明することが出来ない。それは神がいかに死人に生命を与えるか説明しようとするようなものである。イエスは言われる、

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこから来て、

どこへ行くのかは知らない。霊から生まれる者も皆、それと同じである。」

(ヨハネ 3:8)

聖霊がどのようにして人のうちに働いてその人の情欲をおさえ、誇り、妬みと、利己心に勝利させるのか。聖霊だけが知っていることである。自分の内にそれが成し遂げられることを望み、そして他の何にも増して、その実現のために神に信頼する者には、それが必ず成し遂げられるであろう一事を知るだけで我々には十分なのである。

波が逆巻いていたときに、ペテロはどのようにして水の上を歩くことが出来たのか、我々には説明できない。しかし主の命令でペテロはそれを成したことを我々は知っている。彼が主を見つめていた間は、神の力が働いて彼があたかも岩の上を歩くように水の上を容易に歩くことが出来るようにした。けれども、彼があたかも自分の力でそれをしていたように、おそらく自分のしていたことに誇りをもって波を見たとき、恐れがわき起こり、彼は沈み始めた。信仰が彼をして波の上を歩けるようにしたのである。恐れは彼を沈めてしまった。

使徒はこう述べている。

「信仰によって、エリコの城壁は、七日にわたってまわったため、くずれおちた。」(ヘブル 11:30)

何故それが書かれたのか、「それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みを抱かせるためである。」(ローマ 15:4) 何故？我々は戦いに召され、城壁に囲まれた町を攻めるのを期待されているのか。そうではない

「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、權威と闇の世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」

(エペソ 6:12)

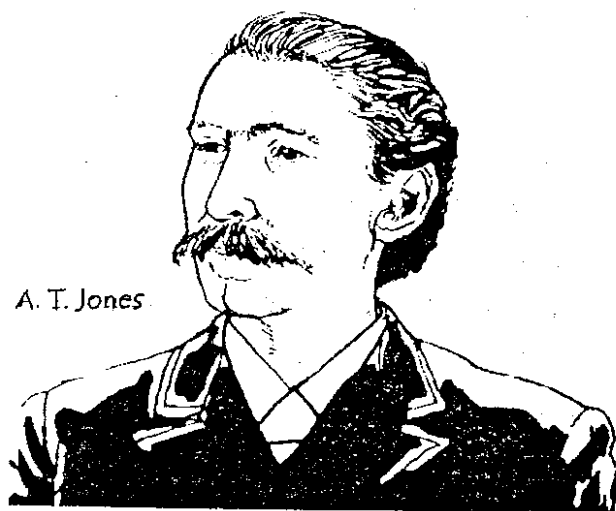
信仰によって得られる、見える血肉の敵に対する勝利が記録されているのは、我々がこの世のやみの世の主権者と戦うときに信仰によって何を成し得るかを示すためなのである。信仰に答える神の恵みは血肉に対する戦いと同一く、闇の世の主権者に対する戦いにも力強く働くのである。使徒は次のように述べている。

「わたしたちは、肉にあって歩いてはいるが、肉に従って戦っているのではない。わたしたちの戦いの武器は、肉のものではなく、神のためには要塞をも破壊するほどの力あるものである。わたしたちはさまざまな議論を破り、神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ち壊し、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、」(コリント第二 10:3-5)

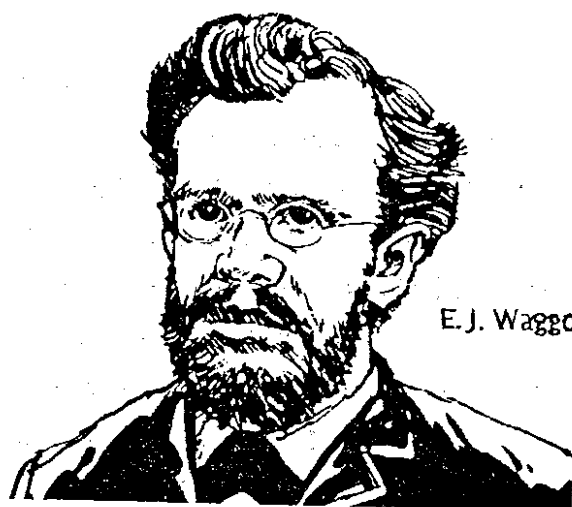
信仰が昔の選民に征服させることができたのは、目に見える敵だけではなかった。聖書によると、彼等は単に「国々を征服し」ただけではなく「義を行い、約束のものを受

け」そして何よりも素晴らしく、励みになるのは、「弱いものは強くされ」た、ということである。(ヘブル 11:33,34) 彼等の弱さそのものが信仰によって力となった。何故なら、キリストの力は弱いところに完全にあらわされるからである。それでは誰かを神の民の責任とするのか？人を義とされるのは神であり、わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのであるに、「だれがキリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦難か、苦悩か、飢えか、裸か、危難か、剣か。」「しかし、わたしたちを愛してくださった方によって、わたしたちは、これらすべてのことにおいて、勝ち得て余りがある。」(ローマ 8:35,36)

(1888年メッセージ説教集よりの訳 M. S.)



A. T. Jones



E. J. Waggoner

重要な事と重要でない事

世界総会からの訴え

1. 教会がラオデキヤ状態にあること。(黙示録 3:14-23)
2. キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されていないこと。
3. イエスの再臨が長い間遅れていること。
4. セブンスデーアドベンチスト教会が第一に考えねばならないことは、主の再臨を早める事が出来るように、個人としても団体としても、その優先順位を改めねばならないということ。

重要でない事

1. 民として我々は、我々の必要と我々の住んでいる時代感覚に少しも目覚めていない。夜回りよ起きなさい！我々の最初の働きは心を探り、再び悔い改めることである。我々はあまり重要でない事柄のために時を失ってはならない。 (MM 301頁)
2. 天使は言った。「悪天使達の群れがあなたがたを取り巻いている。あなたがたは軽々と準備の仕事から他の事へ心をそらしてしまう。(EW 223頁)
3. 注意を引く多くの話題を避けなければならない。時間を取り、せんさく心を起こさせ、しかもその結果の空しい問題が世の中には多く、比較的つまらぬことに、細心の注意と努力を払うことがよくあるが、それは最高の問題に対して払うべきである。新しい説を受け入れても、それは心に新しい生命をもたらさない。極めて重要な事実や学説を読んでも、実際に応用しなければ価値がない。私達は自分の心に栄養となり、霊的生活を刺激する食物を取る責任を感じなければならない。
(箴言 2:2~11, 3:18, MH 438, 439)
4. しかし、祈りや聖書研究にあてられる時間、魂のヘリ下りと罪の告白にあてられる時間はほとんどないのである。サタンは数えきれない程の策略を考え出して、我々の心を探らえ、我々が最も知っていなければならない働きそのものについて、我々に考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、あがないの犠牲と全能の仲保者を明らかにする真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに万事がかかっている事を彼は知っている。……すべてのものが、これらの問題を徹底的に研究し、彼らの内にある望みについて、説明を求める人に答えることが出来るようにすることは、何よりも重要な事である。(GC下巻 222~223頁)

重要な主題

1. キリストの再臨 「すべての使命の基調としなさい。」 (6T 406頁)
2. 「2300日と関連した聖所、又神の戒めとイエスの信仰・・・使命者の取り扱うべき特別な主題」 (初代文集 138)
3. 「安息日一人の性質—イエスの証・・・危機の時における神の民のいかり」 (1T 300頁)
4. 「三重の使命」が我々の使命 (9T 98頁、) 我々の働き (8T 117頁)
5. 信仰による義 「この主題及びそれに類する真理を、十分に教えられないために教会は死につつある。」 (GW 301頁)
6. 聖霊 「偉大な教師であられるキリストは、選ぶことが出来る主題が無数にあったのもかかわらず彼が最も多く語られたのは、聖霊についてであった。・・・それなのに今、これほど顧みられていない主題があるうか！」
7. キリストの人性 「我々の魂をキリストに・・・神に結びつける黄金の鎖・・・これが我々の研究課題」 (YI 10/13,1898)
8. ダニエル書、黙示録、「神の民の心の中で第一位を占めるべきものである。他の何物にも我々の関心を奪われてはならない。」 (8T 302頁)
9. 「説教であっても、どんな聖書研究であっても、世の罪を取り除く神の小羊を、聞く人に指し示さないでなされてはならない。」 (6T 54頁)

♣どの主題にも①キリストの再臨—時の切迫、②神の小羊—十字架、を何らかのかたちで取り入れること！！

10. 真の敬けんのリバイバルを求めること 「最大にして急を要する必要がある。これを求める我々の第一の働きである。」 (CS 53頁)
12. イザヤ58章 「最高に重要」 (WM 29頁)
13. 医事伝道の働き (CS 188頁)
14. 出版物の働き 「どの働きよりも大切」 (CS 208頁)
15. 家庭伝道 「これより大切な伝道地はない。」 (CS 296頁)

♣今や、生ける者の裁きが始まろうとしている時、清められない野心に心がとらわれて、危機のこの時の必要を満たすように要求されて、教育を怠るままにしていいだろうか。♣

(6T 130頁)

広告

聖所の図解

◆天の至聖所に生まれたともいえるアドベンチストにとっては必須！聖所の真理をあらゆる方面からわかりやすく説明している。多色刷りで説明書付きの物は紙質も高価で聖書研究などにも使用可。一色刷りもあり個人の研究用向き。

★多色刷り・・・・・・・・・・¥2,800

★一色刷り・・・・・・・・・・¥750

仰いで見て生きよ・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥100

◆信仰による義認を簡潔にあらわしたパンフレット

ダニエルと黙示録・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥350

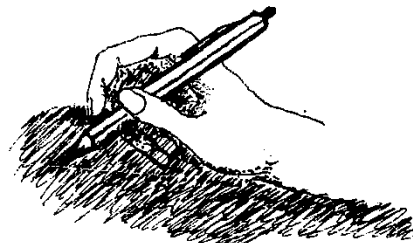
◆ダニエルと黙示録の概要を的確にとらえ、中心思想をズバリ言い当てている。

開かれた門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥480

◆アドベンチスト特異の真理を、数多くの聖句また証の書によって立証している。この小冊子を用いて自分で研究することが出来る。

注：これらの資料は近日出版予定です。皆様の御注文にお答えして間もなく発送できると思います。

この他の資料もただ今作成中です。



編集後記

第一回アンカーを発行して多くの方達からの励まし、御意見などのお便りを頂いて、一同の者は力付けられております。これからもますます内容を充実させて、アドベンチストの真理の核心に入っていきたいと思っております。本誌を読まれて、また皆様のご意見、御感想、御質問などをお聞かせください。大切な御質問などは、アンカーで是非取り上げさせていただきたいと思っております。

尚、アンカーは自分で、また友達の為にリクエストする人に送られます。この出版は皆様の祈りまた自由献金によって続けられます。

〒住所：〒903-01

沖縄県西原町字小波津100番地

アンカーの係りまで

☎ 09805-6-2783

(09894-5-1549)わかば弁当内

編集人： 知念 かおり

発行人： 知名 捷句

